

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

<b>事業名</b> 一般国道17号 浦佐バイパス	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 北陸地方整備局
<b>起終点</b> 自：新潟県南魚沼市市野江甲 至：新潟県魚沼市虫野			<b>延長</b>	6.6km
<b>事業概要</b> 国道17号浦佐バイパスは、幹線道路ネットワークの強化、浸水・濃霧区間の回避、冬期除雪障害の解消などを目的とした延長6.6kmのバイパス事業である。				
S63年度事業化		H3年度都市計画決定		H5年度用地着手
全体事業費		約210億円		事業進捗率
				70%
				供用済延長
				4.0km
<b>地域の防災面の課題</b> ・浦佐バイパスは、新潟県国土強靱化地域計画（H28年3月）にて、大規模災害時のリダンダンシー確保のための日本海国土軸の形成に必要な道路として位置づけられている。 ・魚野川が洪水により氾濫すると、JR上越線と並行する国道17号区間は道路が浸水し通行不能となることや、魚野川沿いの現道区間は、春先になると濃霧による交通阻害などがあることから、魚沼市、南魚沼市から要望がだされているなど地域の喫緊の課題となっている。 ・浦佐バイパス現道区間には、JR上越線と魚野川に挟まれた路肩狭小（0.75m）区間が存在し、道路除雪により側方に寄せられた雪は車道の一部に堆雪するため、運搬排雪による通行障害が生じている。 ・運搬排雪作業は平均で年間75時間実施され、冬期間の道路交通に大きな影響を与えている。				
<b>課題を踏まえた対策・事業内容</b> ・現道区間の魚野川氾濫での道路浸水による通行止め、濃霧の発生、幅員狭小区間の冬期除排雪作業による通行障害を別線での浦佐バイパスの整備により、課題箇所を回避する。				
<b>事業の効果等</b>			<b>費用</b> （残事業）／（事業全体）	
①道路ネットワークの強化 ・大雨等による道路浸水や濃霧等による交通障害の影響を回避			83 / 273億円  〔 事業費：55 / 228億円 維持管理費：28 / 46億円 〕	
②冬期除雪障害の解消 ・車道の一部に堆雪した雪の運搬排雪に伴う通行障害の解消				
③第三次医療施設へのアクセス向上 ・魚沼市街地～魚沼基幹病院へのアクセス向上				
④地域の産業集積支援と生産性向上 ・水の郷工業団地への産業集積支援と進出企業の生産性向上に寄与				
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 地域から頂いた主な意見等： 魚沼市や南魚沼市などで構成される「一般国道17号浦佐バイパス整備促進期成同盟会」から整備促進要望を頂いている。 知事の意見： 地域の安全・安心確保等のため、事業を継続する必要がある。				
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 審議の結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。				
<b>事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等</b> ・H18年10月に関越自動車道 大和スマートICが供用し、H28年3月には24時間運用開始。 ・浦佐バイパス隣接地に地域医療の高度化に向けた第三次医療施設「魚沼基幹病院」がH27年6月に開院。 ・魚沼市では企業立地重点促進区域として、産業集積の形成と活性化を目指し水の郷工業団地を造成。				

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：

- ・ H9年度に工事着手、事業進捗率70%、そのうち用地進捗率約97%（平成28年度末予定）
- ・ H12年度、南魚沼市浦佐（延長約1.1km）部分供用
- ・ H24年度、南魚沼市浦佐～魚沼市十日町間（延長約1.1km）部分供用
- ・ H26年度、魚沼市十日町（延長約1.8km）部分供用

残事業の内容：

南魚沼市市野江甲～浦佐間（延長1.6km）の工事、魚沼市十日町～魚沼市虫野間（延長1.0km）の用地買収および工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

魚沼市十日町～魚沼市虫野間（延長1.0km）について用地買収・改良工事を推進する。  
南魚沼市市野江甲～南魚沼市浦佐間（延長1.6km）についても順次事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

建設発生土の有効活用や新技術の活用等により、コスト縮減を図る。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

国道17号は、東京都から新潟市に至る重要な幹線道路であり、広域的な通過交通や沿線地域間の連携を支える重要な役割を担っている。

浦佐バイパスの整備により、幹線道路ネットワークの強化、浸水・濃霧区間の回避、冬期除雪障害の解消のほか、地域の産業集積支援と生産性の向上など、多様な効果が見込まれるため事業を継続する。

事業概要図



※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。